ケート・グリーンナウェイ・コレクションの整理と展示会

河 岸 道 浩*

聖徳大学図書館

I. はじめに

私が現在勤めている聖徳大学では、蒐集された古書コレクションに関して、学外に展示公開するということは今までなかった。他の大学にも押しなべて言えることは、大学の研究と教育という趣旨から蒐集された貴重な書籍も、図書館に保存管理の状態を続けている所が多いようである。展示による本の損傷などの理由は色々あるだろうが、展示活動と図書館活動とは別だという考えが、図書館員のどこかにあるのではないだろうか。展示会を行うためには、作家の生活から時代背景、作品までをひと通り理解していかなければならない。それだけではなく、会場のレイアウトから図録作成にまで仕事はおよぶ。それらは専門外の仕事だと考えるだけで、実行は遠のいていく。

アメリカやヨーロッパなどの大学の図書館員はマスター級の人が多い。彼らは自分たちが専攻した分野の学科に関しては、かなり高い知識と経験を持ち備えている。そうした自信がより本を熟知させ、蒐集においても充実の度を高め、効果的に大学の優れた図書館作りをしてきているのである。それゆえ、海外の大学の図書館はコレクションの展示活動にも積極的である。日本の大学も今後生涯学習などを通して、ますます地域の文化の要になっていく要素を求められていく現在、その中心的な存在としての図書館のあり方を考えていく必要がある。

II. ケート・グリーンナウェイ展

平成3年9月12日(木)から17日(火)まで、銀座のミキモト・ホールでケート・グリーンナウェイ展をおこなった。聖徳大学としては初めての試みであり、不慣れな事の連続ではあったが、6日間で1,200人以上もの入場者があり、子どもの本への関心の高さを実感するとともに、図書館内では得られぬ貴重な経験をもてたことは、望外の喜びである。

写真1. ケート・グリーンナウェイ展

写真2. Mr. Schuster とミキモト・ホールで

* Michihiro KAWAGISHI : 〒271 松戸市相模台531.

(1991年12月12日 受理)

現在の児童書と比較してみると、当時の挿絵本は多色刷り木版が多く、物語の内容もさることながら本の構成、印刷、製本などあらゆる面で贅沢な感じをただよわせている。

100年を経てもいまだ色褪せない絵本技法と、夢の世界を持ち合わせたケート・グリーナウェイの挿絵は、彼女の名前を知らない人達までをたちまち魅了してしまい、「昔見た夢二や武井武雄に感じがにていますね」という感嘆の声や、「本当にこれらが子どもの本だったんですか?」、「これらの本を子どもが読んで理解できたのですか?」、「当時6シリングの本は、今のどの位の値に相当するのですか?」等々の質問が投げかけられた。会場で問われたこれらの質問に、すぐさま答えられない時もあり、子どもの本にたいしての不勉強を反省するとともに、今後展示会をおこなう上での参考となった。

展示会は一回きりの真剣勝負のようなものであり、一般の観客からの予想できないあらゆる質問や感覚に耐えうるものでなければならない。

Ⅲ. 展示会に当たってのケート・グリーナウェイ・コレクションの整理に関して

Thomas E.Schusterの蒐集によるケート・グリーナウェイの作品を平成2年大学で購入したことが今回の展示会の始まりとなる。コレクションの構成は、書籍326冊（ほとんどすべての本が初版で揃っている）、グリーティング・カード250枚、カレンダー54枚、水彩画3枚、雑誌54点、版木10個、他約800点よりなっている。Schuster,T.E.氏（写真2）はコレクションを種類別、アルファベット順に整理し、通しナンバーをふったカタログを作成しているが、これは Spielmann,M.H. の「KATE GREENAWAY」に次いで必要となる重要書誌である。

写真3. ケート・グリーナウェイ・コレクションの一部

理されているため、大変利用しやすいが欠点も多少ある。編年体で構成されていないことや、作品の背景についての記述が余り無いことである。こうした点は、カードを作って編年体に組み直したり他の資料を参考にした。目の前に大きく広げられたケート・グリーナウェイ・コレクションを一目見ると、非常に可愛らしく、色彩美に溢れた挿絵のコレクションであり、また珍しい版木などが多くあり、感嘆するばかりである。しかし「素晴らしい、美しい、珍しい」などのキーワードだけで整理されたとしたら、このコレクションは底の浅いものに終わってしまうだろう。

本の体系整理と時代背景、そして作者の関係が統一的に整理されてこそコレクションは生きる。そこで整理ポイントを5つに絞ってみた。

- 1) ヴィクトリア朝の社会的環境について
- 2) 印刷の歴史について
- 3) ヴィクトリア朝の絵本挿絵作家について
- 4) グリーナウェイとラスキンについて
- 5) ケート・グリーナウェイの影響について

以上を整理素材として理解を深めていくことにより、単に可愛らしく色彩美に溢れるだけのもの

であった作品群が、より色あいを深めていくと思われた。約800点の書籍、雑誌、カード、絵画等のコレクションを上記5項目の整理ポイントに基づいて作業を進めていくことにした。

1. ヴィクトリア朝の社会的環境について

19世紀は、産業革命によって経済的国家基盤を形成したイギリスの市民階級が、社会的進出を大きく果たすことによって、今まで特権階級のものであった芸術文化を民衆が手に獲得する時代であった。

また生活に少しずつゆとりを持ち始めた市民階級は、教育の向上と相まって書籍・雑誌へ娯楽を求めるようにもなった。小野二郎は次のように述べている「大衆の読み書き能力の向上と印刷の増大は急速であった。1785年ロンドンで文字印刷業者の数は124であったが、1824年までには316程になり、19世紀半ばには500になった。読書人口も急速に増えた。教会は国教も非国教も日曜学校を充実し、さらに日曜以外にも昼間学校を開き、子どもに読み書きを教えたが、大人向けのクラスも設けられた」¹⁾。

当時雑誌が民衆に広く受け入れられたことは、彫版工房の数などからも推し量ることができる。小野二郎は続けて次のように述べている。「彫版工房の数が1840年頃から急激に増え始めた。その数は20ばかりであったのが、20年後の60年には80に、1880年には倍増の160、85年くらいがピークで180を越えた。この現象の理由は、当然絵入り定期刊行物の増大にからむ需要増であるわけである」²⁾。こうした時代背景の中でケート・グリーンナウェイの作品は娯楽性を要求されて、雑誌に登場することになる。

「Under the Window」で華々しくデビューする1878年までの無名時代、彼女は彫版師をしていた父・ジョンの関係もあり「Illustrated London News」に多く掲載されたが、挿絵の作風は後の

写真4. 『Illustrated London News』1875

グリーンナウェイ・タッチとは幾分異なりをみせている(写真4)。

他の彼女の挿絵が載った雑誌の中でも特に有名なものとして

「Punch」1880年12月号、1881年12月号

「Every Girl's Annual」George Routledge & Sons : LONDON

「Little Wide-Awake」George Routledge & Sons : LONDON

「Girls Own Annual」Macmillan Co : LONDON

「Little Folks」Cassell Petter & Galpin : LONDON, PARIS, NY

「The Century Magazine」The Century Co : N.Y. Macmillan & Co : LONDON

「The Art Journal」H.Virtune & Co Ltd : LONDON 1902年2月号、4月号、などがある。

2. 印刷の歴史について

18世紀は銅版印刷が主流であり、木版印刷はほとんど使用されることがなかった。ただ、行商人(チャップマン)が取り扱う、薄くて、雑にでき

てはいるが仕事の合間などに見るには充分娯楽となった木版印刷の本があった。料理、占い、昔話、わらべうたなどの本が多かった。これらの本はチャップブックと呼ばれもてはやされた。

19世紀初期に Thomas Bewick (1753~1828) は木版技法に工夫をこらし(ウッド・エングレイビング), John Baxter (1804~1867) は木版のカラー印刷を確立した。しかし、それでも19世紀初めの児童書はチャップブックのように粗雑にできたものが多かった。この時代、木版印刷を通して実質的な児童書の向上を図ったのは、バクスターの印刷方法に改良を加えて多色木版刷りをおこなった Edmund Evans と言っているだろう。

3. ヴィクトリア朝の絵本挿絵作家について

Edmund Evans (1826~1905) は児童書のグレード・アップを図るため、自らの工房で挿絵作家 Walter Crane (1845~1915) と組み、多色刷りの良質な絵本を多く世に送った。クレインの後、Randolph Caldecott (1846~1886) や Kate Greenaway (1846~1901) と組んで、ヴィクトリア朝の絵本の黄金時代を築き上げるのである。またここで、出版社のラウトリッジ社を書き添えておくことも必要だろう。ケート・グリーナウェイの名声を高めた書籍は、ほとんどこの出版社から出されている。

時代の要求と、作家、彫版師、出版社の出会い、これらが歴史の隙間に融合しあって芸術作品は出来上がるのである。

以上整理するとケート・グリーナウェイの書籍も1877年、彼女がエヴァンスに出会うことによって、その色彩、モチーフなどが変わっていく様子がわかる。一応1867年から1877年頃迄を初期創作期として整理した(写真5)。

彼女の後期作品と比較しての特徴は、

- i) 書籍類を除き、ほとんどが白黒の印刷である。
- ii) 彼女は、原作のある物語の表紙、中表紙、そ

写真5. 『Fairy Gifts』1875

して挿絵などを描いている。

- iii) ケート・グリーナウェイのサインK.Gがほとんど見られない。
- iv) 一冊の本に、彼女以外の挿絵画家が掲載されている。
- v) 多色刷木版が、まだ一部を除いて完成されていない時代であった。
- vi) ケート・グリーナウェイは、まだ単なるアルバイト的立場で求められていた。

1878年「Under the Window」で一躍、詩人的要素を持ち合わせた挿絵画家としてデビューするや、その後つぎつぎに発表される彼女の作品ばかり

写真6. 『Under the Window』1878

りではなく、その親までにも強い影響をあたえた(写真6)。

4. グリーナウェイとラスキンについて

1878年ケート・グリーンナウェイが「Under the Window」によってデビューしたことは述べたが、彼女の作品と人生に大きく影響をあたえた存在として John Ruskin (1819~1900) がいる。彼は当時、美術評論家として、また文芸作家として大御所的存在であった。彼女のデビュー作ばかりではなく、その後の作品にも勇気と賞賛を贈ったラスキンは、いつの間にかケートにとっては無くてはならない存在になっていた。ただ、ラスキンの気持ちは、それほど恋愛がかったものではなかったようである。ケート・グリーンナウェイのラスキンへの思い入れは誕生日や事あるごとに彼に贈られた水彩画から伺う事ができる(写真7)。これらの水彩画は1921年Cundall, H. M. によってまとめられ、『KATE GREENAWAY PICTURES』限定本を含めて2種類発行されている。

ケート・グリーンナウェイの作品は純粋な子どもの世界を対象としたものと、ラスキンへの思いを画家としてキャンバスに描いた作品に分けられることもできる。

5. ケート・グリーンナウェイの影響について

彼女の作品の影響はイミテーション版(模倣版)

写真7. ケートがラスキンの誕生日に贈った絵

写真8. イミテーションの数々

や海賊版などが多く出回ったことから伺い知れる。

子どもばかりでなく、母親にも「自分の子どもに、こんな服を着せたい」と思わせるほど人気のあるキャラクターをつぎつぎに世に送り出しながらも盗用され続けたケート・グリーンナウェイは、やがてヴィクトリア時代の心变りののはげしい、物質主義的な感覚の民衆にあきらまれていく。いったん下火になったケート・グリーンナウェイのブームも今世紀最大の美術雑誌と言われる The Art Journal の1902年2月号と4月号に「KATE GREENAWAY I, II」に掲載され、再評価された。

彼女のイミテーションや海賊版の商品は、トラップ、陶磁器、テーブルクロス、布切れの模様、カード、そして本や雑誌にまで及ぶ(写真8)。この事は、彼女を大変哀しませはしたが、彼女の作風はドーバーを越えてフランス、ドイツなどにまで及びグリーンナウェイ・ヴォーグと呼ばれ広く愛用された。

IV. 展示会に向けての図録作成について

書籍を中心とした作品群の整理が進んでいくと、彼女の生涯や作品の内容、作風などが少しずつ浮かび上がってくる。そうなると約800点の作品も大まかながらも揃めてきて、ある程度のまとまっ

た形に仕分けができてくる。それらを更にふるいにかけて、写真を撮る箇所や展示会場のレイアウトを考えながら各作品に目を通していく。この作業に約2か月近くもかかってしまったが選り抜かれた本や雑誌などの各ページにはマーク・テープが貼られて、写真撮りもごく短時間で済ませる事ができた。次に撮り終えた約250枚のポジ版をテーマごとに整理し、ページ割りをする作業があった。テーマはケート・グリーンナウェイ・コレクションの全貌をわかりやすくするために下記のように整理した。

- ・無名時代のグリーティング・カード
- ・詩人及び挿絵作家としてのデビュー
- ・初期無名時代の書籍挿絵
- ・Illustrated London News など雑誌の挿絵
- ・マザー・グース
- ・1881年～1885年の創作最盛期
- ・ジョン・ラスキンとの関係を通しての創作
- ・「The Pied Piper of Hamelin」
- ・「Birthday Book」などのギフト・ブック
- ・アルマナック
- ・イミテーション及び海賊版
- ・年表、書誌

図録作成で最後に頭を痛めたのは、表紙についてであった。タイトルをKATE GREENAWAY COLLECTIONとし、彼女の1890年版のアルマナックを表紙絵にあえて用いた。理由は、この年は彼女にとって、本の挿絵を描く事をやめてしまった年であり、挿絵から離れてもっぱら水彩画を描き、展示会に出展し始めた年でもあった。またラスキンとのロマンスにも陰りが見えはじめ、父のジョンが亡くなった年でもあった。このように心境の変化にみまわれた年であったが、彼女はアルマナックだけは描き続けた。そこには、子供の姿や花々が今までにない程の神秘的なタッチで描かれている(写真9)。

写真9.「KATE GREENAWAY COLLECTION」
の表紙

V. 展示会

今回の展示会には様々な人達が見えた。英文学を専攻される大学の教授、絵本作家、絵本に関する組織・機関の方々、銅版摺師、画家、書籍・印刷に関する仕事の方々、そして個人的に絵本に興味を持っている人達。

今回の展示会である専門家の方から次のような話を伺ったとき、手探りながらも半年近く行動してきた私は、現場で方向性を確立したように感じた。「ヴィクトリア朝の木版画の絵本は、作る方にとっては真剣勝負のようなものでした。自分がスケッチしてきたモチーフを、挿絵として限定された範囲での用紙の上に当てはめなければならなかったため、スケッチの一部をカットしたり、バランスを取るために色彩や新たな風景を書き入れたり苦勞をしたようです。写真印刷のように自由にトリミングしたり、拡大、縮小をすることによって、印刷用紙に適応させることはできなかったのです。」

今回の展示会でマザー・グースのコーナーは、結果的にこの言葉を裏付けていた。一枚のオリジナル水彩画「Ring-a-Ring-a-Rose」、本のために書かれた原画（Reprint 版を今回使用）、そして初版本のマザー・グース、これら展示された3点を比較していくだけでも、作者の創作のプロセスが少しわかってくる（写真10, 11）。例えば、同じ視点から見た同日の風景のスケッチが、作者の創造力によってなのか、あるいは限られた挿絵のスペースによる考えからなのかはわからないが、3点の展示品に変化が見られる。子どもたちが8人から6人に、人家の風景が風車小屋に、子どもたちの洋服の色が段々と変わってきている。展示会場ではこのように、多くの人との出会いによって方向性の問題や、疑問点が解決される場でもある。ただしそれは、展示会のテーマと趣旨を、熱意ばかりではなく、単調な中で自分を見失わない整理作業の積み重ねがあってこそできるものであろう。

VI. 終わりに

今、展示会が終わり、ケート・グリーナウェイ・コレクションは書庫に静かに並んでいるが、今後色々な角度からの要望にも答えて展示ができる状態になっている。

写真10. マザー・グースの水彩スケッチ

写真11. マザー・グースの挿絵（初版本）

書籍の整理で大切だと思うことは、取り扱う者が書名だけではなく、内容にも一応通じていなければならないと考える。今回の展示会に当たって図録を作成したことは、内容や本を良く知り整理を進める一番の方法であった。

ただ、今回の整理にあたっては多少の問題点を後に残している。ケート・グリーナウェイの作品の多くは出版年が記載されていない。そうした場合、印刷の状態や製本の方法、また使用している紙質などを比較検討したり、また資料を使って制作に当たったの逸話を調べたりしながら実証すべきであったが、便宜的に Schuster, T. E. のカタログや他の資料の年号を不明確な時に使用して整理に当たってしまった時もあった。以前ある方に「本はまず現物から当たりなさい。資料はその後についてきます」と教えられたことを改めて思い出す。

この展示会に際し、私に適切なご指導をくださった東京女子医科大学の内藤里永子先生に誌面をお借りして感謝致します。

引用文献

- 1) 小野二郎 紅茶を受皿で. 晶文社, 1981 : 74.
- 2) 同上 : 103-4.

参考文献

- 1) 小野二郎 紅茶を受皿で. 晶文社, 1981.
- 2) Spielmann MH, Layard GS. Kate Greenaway. 1st ed. London : Adam and Charles Black, 1905.

- 3) Layard S. Kate Greenaway. 1st ed. London : Adam and Charles Black, 1905.
- 4) Spielmann MH, Layard GS. Kate Greenaway. 1st ed. NY/London : Benjamin Blow, 1905.
- 5) Schuster TE, Engen R. Printed Kate Greenaway ; A Catalogue Raisone. 1st ed. London : Schuster Gallery, 1986.